



富士山大賞

二〇一七 受賞作品歌集

第二回富士山大賞を催したところ千首余りの応募を受けました。出品されました皆様に心より感謝申し上げます。

多くの力作が寄せられ、その一作一作からは富士山が私達の人生や生活に深い影響を成していることを一層強く感じました。

富士山の雄大な姿を仰ぎつつ日本の平安と世界平和を皆様と共に祈り続けたいと思います。

富士山大賞大会長 東久邇信彦

大賞

ねむたげなるひとを窓辺に誘ひて
明けゆく空に富士を見てゐつ

東京都 庄野 史子

準大賞

頂の雲にイデアを眠らせて
富士の名をもつ山々がある

北海道 北山 文子

幼子に「あれが富士よ」と教えた日
疾風の如く過ぎ去りし窓

東京都 小林 裕美

優秀賞

学び舎の窓に校歌に富士の嶺希望託した若さ遙けき

静岡県

今井克己

引越しのトラックがゆくうしろには祈りの形の富士かがやいて

東京都

三辺律子

籠もりつつ砲声ひびく駐屯地富士のすそ野に春の雨ふる

山梨県

池水一美

決断を富士にゆだねることのあり散歩道でもし見えたならばと

神奈川県

風花雫

参考書開くその手はそのままに車窓の富士に誓う合格

岡山県

岩中幹夫

テキストが意味をしづかに抱くやうに富士をはじめて見し甥の眼は

埼玉県

宮本背水

富士山はいつも遠いね登ってもここにはいないような気になる

広島県 杉田 佳凜

青空に深く刺さりし富士山に妻と対き立つ河口湖畔

群馬県 大澤 弘治

嗚呼富士よ大きな景に触れながら人は小さきご飯をこぼす

岐阜県 後藤 進

江戸川に富士を見にゆく何もかもリセットしてしまいたくなるとき

千葉県 遠山 ようこ

くつのなかざらざらにして作りしか砂場のすみにちさき富士山

山梨県 岡 ななを

学生最優秀賞

母を待つ黄昏時は鬼灯のように染まった富士が見ている

山梨県 木下 夢実

外国語短歌優秀賞

fuji fuji
at first sight the sound
of a small bird
for me it is the voice
of this mountain

フジ フジ 最初は小さな鳥の鳴き声に聞こえたその響
きは今私にとって この山の聲

Kath Abela Wilson, USA

fujisan's peak
plateaued by clouds -
that moment
when I know I don't know
enough about you . . .

富士山の山頂が雲で平らになった その瞬間
あなたについて何も知らなかったことに気づく

David Terelinck, Australia

外国語短歌佳作

reaching
the mountain's summit
of my life
i realize i should have taken
a different path

山頂に到達し はじめて人生に 選ぶべき他の道 あったことを知る

pamela a. babusci, USA

as far as the eyes reached
a sea of clouds spread
above them
the red sun rose
and cut the morning

見渡す限り 広がる雲海 その上に赤い日が昇り 朝という切れ目を入れる

Yom Tanker, Japan

you are mountain
I am mountain too
deeply
rooted into
10,000 miles of earth

あなたは山、私もまた山 地下 10,000 マイルに 深く根付いて

Genie Nakano, USA

sacred Mt. Fuji
home of the Immortals
hidden in clouds—
like Issa' s snail
I climb it slowly, slowly

聖なる富士山 雲に隠れた 神々の住処 一茶の蝸牛のように そろそろと私も登る

Margaret Chula USA

They were his life
the mountains and valleys
along this railway line
I feel like visiting
my father's legacy

線路沿いに続く山々と溪谷 それは父の人生そのもの こうして辿れば
父のレガシーを訪ねる旅に

Valeria Barouch, Switzerland

that cloud bank
crevassed by sunset
at the lane's end
the mountain of a man
my father was

道の果ての雲堤 夕日で深い割れ目ができる 山のごとき男だった 私の父

Claire Everett, UK

how cool
a cup of libation
I had
at the small shrine
on the top of Mt. Tate

立山の山頂 小さな神社にて戴いた 献酒の杯の 清々しさ

Tomoko Mikami, Japan

in twilight hush
mountains hold on to colours -
split-second
enough to press the image
on my mind's iPod

薄明の静寂 山々が微かな色彩をとどめようとする
最後の一瞬 心の iPod に残像を焼き付ける それは束の間

Kala Ramesh, India

佳作

沖釣りのさねさし相模わたつみの彼方にあをき富士のそびえる
野上卓

くつきりと富士山ありて受験の日ただ手を合わす母を見ていた
高千穂幸香

高校の修学旅行の富士の詩を母は褒めたり見たことなしに
清水静子

わたしにも畏るる心あらまほしきつと一生登らないだろ
白糸雅樹

動脈瘤患い低山歩いてる真紅のシャツの白髪の人
森下博史

ふじさんがほしいと言って手を伸ばす稚児よあなたも大河であった
熊谷友紀子

火祭りの炎に浮かぶ顔と顔お山じまいの富士をねぎらう
永井英男

障害を持つ子の願い叶えんと登山サポーター富士に集えり
熊本芳郎

「ふじしゃんだ」叫ぶ幼児に乘客等微笑みて見る北の車窓を
熊本裕子

富士登山果たせぬままの我が父の向日葵色の登山着残る
田中亜紀子

まかがやく朝明の空がひらけゆく富士山にだつて行けさうな朝 杉田加代子
麓ゆく新幹線と富士の絵も描かせてみたし北斎を呼べ 山本みさよ
音もない成層圏から見える富士 運命なんてもっと小さい 風野瑞人
聳ゆるを見下ろしてゐる違和感に粟立つこころ息みな白し 遠 音
大いなる穴を見るらんアマツバメ翼を展げ富士の頂 塚本みき
”WOWFUJII!”とカメラ取り出す短パンに膝を縮めて窓を貸しやる 貝原 亮
夕暮れの車窓をふさぐ黒い山身延線にて予期せぬ富士が 植田和子
フレームを飛び出しながらぐんぐんと富士の大地は天へのびる 有村桔梗
甲府より窓に見えたる雪の嶺大月線で富士になりゆく 与儀典子
履捨て草鞋道みちに見かけつつ昭和二十一年の初富士登山 関井宮子
裏山に見下ろす二十戸の集落の茅屋を胸に十五歳の旅立ち 芳賀辰雄
朝明には富士の占めし空を埋めしみに弥生の雪降りしきる 谷萩礼子
富士講の札も色褪せ屋根こぼち廃墟となった茶屋にて憩う 市村喜義

裏山が富士山でしたと胸をはり生きてきました四十五年を 菅原 あつ子
去年の秋母を亡くしし少年のスバルラインに落葉松が降る 雅 風 子
車窓には親戚のような顔をして富士がゆったり微笑んでいる 杉山 太郎
鳴虫山の山頂晴れて川原神父さまわれらに抹茶を立てて下さりき 鈴木 紀子
出羽富士と庄内平野を父母として抱かれ生き来て古希を迎ふる 大橋 敏子
「富士山は乙女峠より」と称へるし父を語りに次女・三女・四女 石附 安代
かたつむりゆっくり登れ富士の山と園児ら朗誦一日(ひとひ)始まる 豊 岡 稔
山頂でおたふく風になりし生徒を背負いて下りる高校教師 入谷 五十鈴
富士山は寂しそうだよ肩を組む仲間もなくてひとりぼっちで 久野 利典
たびさきであった富士見という地名どこにみえるかさがすぼくたち 村 松 滉 太
妹が初めて登るあの富士からこの学校は見えるだろうか 高山虎之助
まどからはみえなかったけどふじさんはきれいなはずだみんないうから 横 道 玄

【選者】

選考委員長 岡井 隆（日本芸術院会員、宮内庁和歌御用掛）
選考委員 三枝昂之（山梨県立文学館館長、日本歌人クラブ会長）
穂村 弘（日本経済新聞歌壇選者）
東 直子（東京新聞歌壇選者、早稲田大学教授）

【開催団体】

富士山大賞実行委員会
NPO 法人富士山自然文化情報センター
NPO 法人富士山クラブ
世界連邦文化教育推進協議会
全国富士講睦会
一般財団法人 徳大寺文庫

【後援】

外務省 経済産業省 環境省 富士山世界遺産国民会議

【映像協力】

富士山世界遺産センター 山梨県 ロッキー田中

【式典会場】

平成三十年二月十日 於 日本橋劇場